

NEWS RELEASE

報道関係者各位

2015年5月27日 送信枚数5枚

【オリコン 若者のビールに関するトレンド調査レポート】

～若者の間で新たなビールの楽しみ方がトレンドに～

ビール派「のどごしの良さ」「爽快感」を求め、非ビール派「味が好きではない」「苦い」
甘くて飲みやすいお酒を求め、理想とするビールは「苦くない・甘い・フルーティ」

4人に1人がすでにレモン風味のラドラーなど『フレーバービール』の飲用経験あり

専門家・眞山徳人氏「飲みやすい味で、若年層を取り込んだビールの新しいスタイル」

アルコール飲料において、常にトレンドの中心にあるのがビールです。しかも昨年は、酒造元がこだわりの味を追求したクラフトビールがヒットするなど、話題を独占しました。その熱も冷めやまぬうちに、新たに今年、急激に人気を集めているのが新しいスタイルであるフレーバービール（※）です。製造過程で果物やハーブなどの風味や香りを付け足したビールで、苦みを抑えた爽やかな飲み口を特徴としています。大手メーカーでも、キリンビールが昨年11月にセブン&アイ・ホールディングスと共同開発したり、ローソンと北海道麦酒醸造が共同開発して販売。さらに、今年の3月には、サントリーがすっきり甘いレモン風味のピアスタイル「サントリー ラドラー」を商品化し、若年層を中心にすでに多くの愛飲者を獲得するなど、「フレーバービール」人気に注目が集まっています。

実は、この新しいスタイルであるフレーバービール人気、背景には若者のビール離れがあります。ビールやコンビニのトレンドに詳しい流通評論家兼公認会計士の眞山徳人氏は、「フレーバービールは、若者が苦手としている味わいを、飲みやすく気軽に飲めるように設計したことで、若年層を取り込みヒットにつながっている」と分析しています。

オリコンでは、今回、この若者とビールの関わりについて実態を調べるべく、20～30代の男女600名にアンケート調査を実施するとともに、専門家を交えて、今後のビール市場を予想しました。

（※）フレーバービールは、ビール類に果実の香りや味わいを付けた発泡酒等をいいます。

調査概要

- ◆調査名： 「お酒に関する意識調査」 ◆調査期間： 2015年5月1日（金）～5月8日（金）
- ◆調査地域： 全国 ◆調査対象： 20～30代 男女 計600サンプル（20代/30代男性、20代/30代女性、各150サンプル）
- ◆調査方法： インターネット調査 ◆調査機関： オリコン・モニターサーチ ◆調査企画： 株式会社oricon ME

【調査結果と傾向】

1. 「とりあえずビール」は半数！ビール派の理由「のどごしが良い」「爽快感がある」
一方、残り半数は違う飲料を頼む傾向に。ビールを飲まない理由は「味が好きではない」「苦い」が過半数以上
2. 甘くて飲みやすいお酒を求める傾向に。理想とするビールは「苦くない・甘い・フルーティ」という結果に。
3. 4人に1人がすでに『フレーバービール』を飲用経験あり。おいしそうだと思うフレーバー1位は「レモン」。
ドイツ生まれのレモン風味のビールテイスト「ラドラー」の人気に拍車か
4. “苦味を楽しむ”から“さまざまな味を楽しむ”へ——ビールを気軽に楽しむ新スタイルが若者のトレンドに
専門家・眞山徳人氏「飲みやすい味で、若年層を取り込んだビールの新しいスタイル『フレーバービール』」
5. 国内の人気フレーバービール銘柄は？

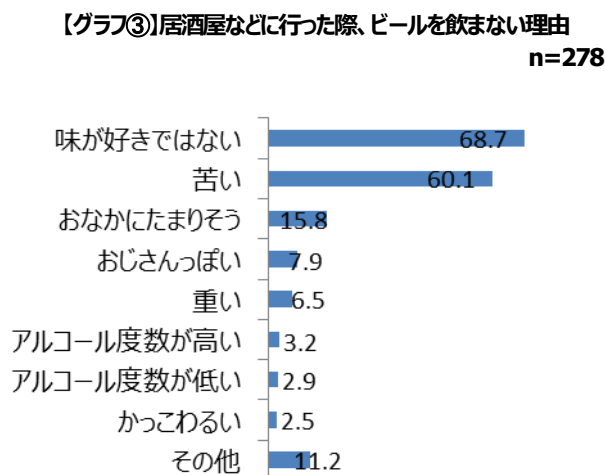
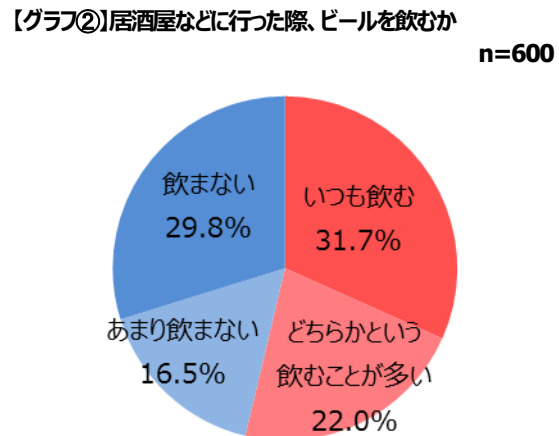
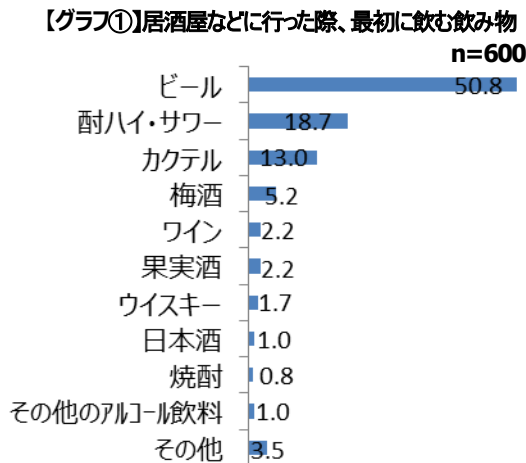
世界のビール博物館 溝田俊英氏 「以前から注目を集めていた『ラドラー』や海外銘柄の果実系フレーバービールが人気」

1. 「とりあえずビール」は半数という結果に。ビール派の理由「のどごしが良い」「爽快感がある」 一方、残りの半数は違う飲料を頼む。ビールを飲まない理由は、「味が好きではない」「苦い」

一昔前は、居酒屋に行ったら「とりあえずビール」というように、まずはビールを飲むのが当たり前とする風潮もありましたが、最近の若者は違うようです。調査では、居酒屋などに行った際に最初に飲むことが多い飲料としてビールをあげた人は、50.8%となりました。【グラフ①】。ビールをあげた人の理由には「のどごしが良い」（大阪府／30代／男性）「爽快感がある」（東京都／30代／男性）といった声があがりました。

一方で、最初に限らず、ビールを飲むかとの質問に対しては、「いつも飲む」と答えた人は31.7%にとどまっており、居酒屋に行ってもビールを飲まないで終わる人が多いことがわかりました【グラフ②】。

その理由はどこにあるのでしょうか。「飲まない」「あまり飲まない」と答えた人に尋ねたところ、「味が好きではない」が68.7%と最も多く、2番目も60.1%で「苦い」が続く結果になりました【グラフ③】。この二つが飛び抜けた数字になっており、ビール特有の苦い味が若者のビールを飲まない理由の要因となっていることを示すものといえます。一方、ビールを普段飲まない人に「飲みたい・飲めてうらやましいと思った瞬間」を聞いてみると「飲んでいる人を見ると美味しそう」、「乾杯が楽しそう」、「暑い日・のどが渴いた時に良さそう」など、潜在的にはビールの魅力を感じていることもわかりました。



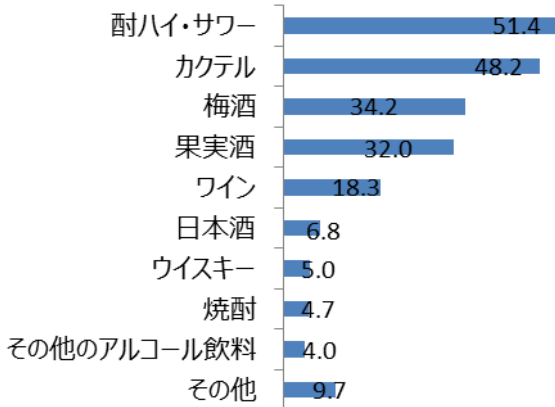
2. 甘くて飲みやすいお酒を求める傾向に。 理想とするビールにも「苦くなく・甘い・フルーティ」なものを求める結果が。

ビールを飲まない人が何を飲んでいるかに注目してみると、若者の嗜好がさらに鮮明になってきます。まず最も多かったのは 51.4%

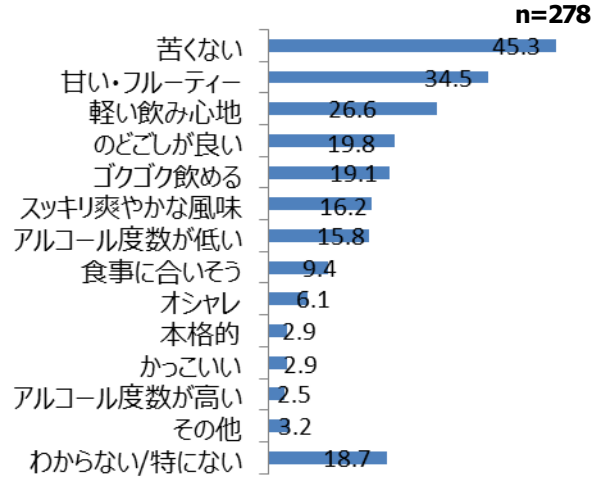
があげた「酎ハイ・サワー」です。次いで「カクテル」が 48.2%、「梅酒」34.2%、「果実酒」32.0%と続きます。いずれも甘くて、飲みやすいお酒が来ており、ビール好きとは対極ともいえる嗜好が伺えます【グラフ④】。

さらに、このグループに飲んでもよいと思う「理想とするビール」を尋ねた質問に対しても、「苦くない」45.3%、「甘い・フルーティー」34.5%、「軽い飲み心地」26.6%という3つが上位を占めており、ビールを気軽に飲める味わいが若者に求められているという現状がわかりました。【グラフ⑤】。

【グラフ④】居酒屋などに行った際、ビール以外で飲むことが多い飲み物
n=278



【グラフ⑤】飲んでも良い「理想とするビール」
n=278



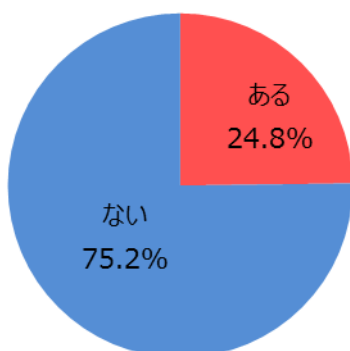
3. 4人に1人がすでにフレーバービールを飲んだことがある。おいしそうと思うフレーバー 1位は「レモン」。ドイツ生まれのレモン風味フレーバービール「ラドラー」の人気に拍車か。

上述の「苦くなく」「甘くて飲みやすい」飲料を求める若者の嗜好に合致するものとして登場したのが新しいビールのスタイルであるフレーバービールです。では、実際にフレーバービールを飲んだことがある人は、どれくらいいるのでしょうか。今回の調査では、24.8%、実に4人に1人がフレーバービールを飲んだことがあると回答しました。これは、市場の歴史の浅さからすると、大きい数字と見ることができます【グラフ⑥】。飲んだ感想としては、「好き」27.5%、「まあまあ好き」40.9%と、あわせて 68.4%が好きと答えており、支持を受けている傾向が明らかになりました【グラフ⑦】。

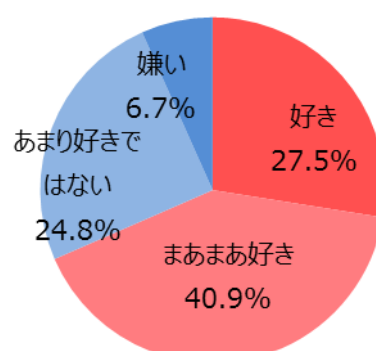
さらに、今後、飲食店に行った際にフレーバービールを飲んでみたいか、その意向についても尋ねたところ、「とても飲みたい」12.2%、「飲んでみたいと思う 41.7%」と、「飲みたい」が過半数を超えており、フレーバービール人気の本格化が見える結果に。【グラフ⑧】。

そこで、「飲みたい」と答えた人を対象に、おいしそうと思うフレーバーについても聞いてみました。結果、レモンが 68.5%と断トツの1位となりました【グラフ⑨】。ドイツ生まれのレモン風味の「ラドラー」などはまさにこのレモン風味であり、好みをつかんだことが若者から人気を獲得した大きな要因の一つと言えます。

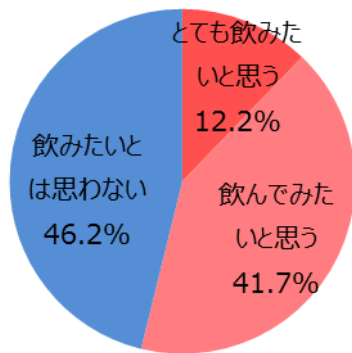
【グラフ⑥】フレーバービールを飲んだことがあるか
n=600



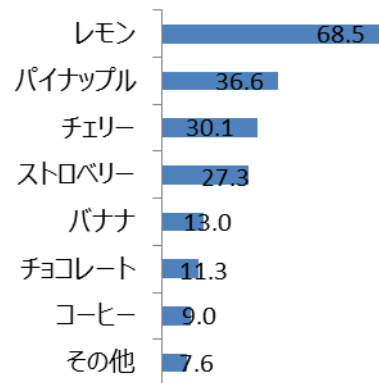
【グラフ⑦】フレーバービールは好きか
n=149



【グラフ⑧】今後、飲食店に行った際にフレーバービールを飲んでみたい
n=600



【グラフ⑨】おいしそうと思うフレーバービールのフレーバー
n=355



4. “苦味を楽しむ”から

飲みやすい味わいで気軽に楽しむスタイルが若者のトレンドに

調査結果から、苦い味が若者がビールを飲まない理由になっている一方で、ビールをおいそう、楽しそうと思っている気持ちがあるという現状と、甘くて飲みやすい飲料を求めるニーズがフレーバービールを人気の飲料に押し上げた実態が明らかになりました。

この点について、前述の眞山氏も、「若者がビールを飲まない理由にある一つが「味」です。苦味があって飲みにくいビールを選ぶ必要はないと考え、敬遠されるようになりました。この問題をうまく解決することで、若者の支持を得たのが、親しみやすい味わいを持つレモン風味のラドラーなどのフレーバービールです」と分析します。

ただし、そこには、若者の嗜好の変化に加えて、「味わいを楽しむ」というビールの新たな飲み方・スタイルが浸透してきたことが土壌としてできていたことが大きいというのが眞山氏の分析です。



眞山徳人氏

ビールやコンビニのトレンドに詳しい流通評論家。また、公認会計士としても活躍中。大手監査法人の就職を経て、国内上場企業等の監査や各種コンサルティング、研修講師等を行っている。

5. 日本でも浸透してきた新ジャンル「フレーバービール」

世界のビール博物館 溝田俊英氏 「日本で『ラドラー』を探されている方って実はけっこう多かったんです」

また、もともと海外ではポピュラーだった果物を使った地ビールが、日本でも「浸透してきたような気がします」と語るのは、世界のビール博物館横浜店で店長を務める溝田俊英氏です。

「ビールの野外イベントも人気を集めておりまして、それに合わせて日本のクラフトビール会社さんが地元産の果物を使ったフレーバービールを造り始めたのですが、ようやく浸透してきたように思います。ビールが苦手という方に対して、フレーバービールをご提案すると、まずはその味覚に大きな衝撃を受けられ、最終的には気に入っていただく方もいらっしゃいます。



世界のビール博物館横浜店 店長 溝田俊英氏

その中でも、海外で人気のフレーバービールという、自転車乗りという名前からついたドイツの『ラドラー』。ドイツ国内だけではなく、ヨーロッパ全体でも親しまれているフルーツビールで、ドイツに住まっていた方などで、日本でラドラーを探されている方って実はけっこう多かったんです」（満田氏）

若者の嗜好を取り込んだフレーバービールの人気は今後ますます高まる見込みです。特に、「気温が高くなるこれからの季節、飲み口が軽く、さわやかな味わいのもが多いフレーバービールは、野外で楽しむのこってつけ」と眞山氏も推奨します。そんな眞山氏にお薦めのフレーバービールの楽しみ方を尋ねたところ「果実系のフレーバービアは日本食よりも洋食の方が合わせやすい。あるいは、食事と一緒に飲む楽しみ方だけでなく、食前食後や湯上がりなどのシチュエーションに飲むのもお薦めです」とのこと。今年の夏はフレーバービールのように、ビールを気軽に楽しむ新スタイルが若者の間でトレンドになると思われます。



1. すっきり甘いレモン風味を実現した「ラドラー」（サントリー）
2. 人気チェリーを使ったベルギーの「セントルイスクリーク」
3. グレープフルーツフレーバーの「シェッファーホッファーグレープフルーツ」
4. パッションフルーツフレーバーの「フロリス・パッションフルーツ」
5. パイナップルフレーバーの「シャポー・パイナップル」
6. ピンクグレープフルーツフレーバーの「ピンクキラー」
7. バナナフレーバーでユニークな味の「モンゴゾバナナ」

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 oricon ME 担当： 中舘、竹島

TEL 03-6447-0570 / FAX 03-3470-0626 e-mail : cominfo@oricon.jp